

市民俳歌柳壇

俳壇

星田一草 選

初雀疊に影を落としけり
すんなりと母系継がれり雑煮膳

緑2丁目 片嶋 青水
双葉1丁目 大島 志朗

煌々と足下照らす冬の月
断捨離の袋十個や日脚伸ぶ

花園町 小林 秀行
上戸祭町 渡邊 順子

◎選評 一月四日は仕事始めの日。作者は、退職後の悠々自適の生活。仕事始めは関係ない。三カ日は屠蘇とおせち料理。少々飽きがきた。「そろり手の出る」のユーモラスな表現に作者のこの三日間の生活が想像できる。おらかな人柄が伝わってくる。

積ん読へそろり手の出る四日かな

●江曾島本町 中村 元吉

柳壇

荒井宗明 選

あと五分寝たい布団の温かさ
茶柱も斜め話ももめてくる

東埴田2丁目 渡辺 眞左
鑑山町 湯沢 くに

大根の味に落ち着くおでん鍋
丸腰となるのが恐い免許証

清原台4丁目 水上 義明
平松本町 鶴牧三千弥

◎選評 「冬来たりなば春遠からじ」と言う。一月末ともなれば春近しの感が強くなり、木々草々にも生氣の戻る様子が見られる。そして、春への心が高まるのである。もう冬にも飽きた。歩きはじめたみいちゃんではないが、春よ来いである。

スニーカーお揃いで待つ春隣

●不動前2丁目 山中ヒロ子

歌壇

安野登美子 選

湧き水に底ひの砂の動きをり
歩みを止めて見る柿田川

江曾島町 長谷川 昇
泉町 秋野 毅

ふくいくと甘くかがよふらんまんの
気高きくらばい春を待ちをり

戸祭2丁目 林 佳子
下田原町 和田 文男

◎選評 初句から三句まで丁寧に描写し、水底の砂の動きまで捉えた繊細な目は、静岡清水町にある、清流として知られた柿田川であった。「歩みを止めて見る柿田川」に感動の在りかが鮮明に表出される。上の句の着眼、感動が下の句を引いてきた。ここにわれの内面が如実に引き寄せられ、調べが整い、隙間のない一首が構築された。

清原台5丁目 北市 邦子

うつのみやの 歴史を紐解く物語

最終回 農村に生きた人々が築いた その2 文化豊かな田園の地 うつのみや



宇都宮の田園地帯では、昔から、自然と共に暮らしていく中、自然や神々に人々の繁栄や五穀豊穡を願って、さまざまな伝統行事が行われてきました。

■宇都宮北部に伝わる獅子舞 北部地域では、天下一関白神獅子舞など、雄2匹・雌1匹からなる、一人立ち三匹獅子舞が、毎年、盆や二百十日(9月1日頃)、あるいは道や橋が完成した時などに、悪疫退散、家内安全、風雨順調などを願って行われています。



▲天下一関白神獅子舞

■豊作を願う天祭 市内50カ所以上の場所で、太陽や月をはじめとする神々などに、風雨順調・五穀豊穡などを祈願する天祭が行われていたことが知られています。天祭は、江戸後期に盛んとなり、念仏を唱えながら祭壇の周囲を回るもので、その中

心となる二階建ての彫刻屋台の形をとった天棚は、全国的に見ても宇都宮市とその近辺にしか存在しない独特なものだそうです。

■日光街道沿いの付祭 日光街道沿いでは、夏の暑い時期に、疫病退散や家内安全、五穀豊穡を願って、石那田八坂神社天王祭付祭や徳次郎智賀都神社祭礼付祭で、それぞれ6台の彫刻屋台が繰り出され、地域の一大行事となっています。

■地域に伝わる伝統行事を未来へ この他にも、羽黒山神社の梵天祭りや瓦谷の神楽など、各地で伝統的な行事が、今もなお地域の人々によって引き継がれています。

これらの行事は、地域の人々の絆を深め、地域の一体感を生み出すことのできる貴重な文化資源です。みんなで力を合わせ、未来の子どもたちに、これらの伝統行事を伝えていきたいものです。

☎文化課 ☎(632)2764

◎俳歌柳壇 応募方法 1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。対象は市内在住の人で、未発表作品に限ります。はがきに、作品(漢字にはふりがなも付けて)・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。☎広報広聴課 ☎(632)2028